

## 令和5年度森林・林業白書の総括

### 1. 閣議決定・公表までの経緯

(1) 令和5年度白書では、特集において、「花粉と森林」をテーマとし、スギ等の人工林が造成されてきた経緯やスギ花粉症等の顕在化と対応の経緯を解説するとともに、花粉発生源対策や今後の森林整備の方向性等について記述した。

トピックスにおいて、「①国民一人一人が、森を支える。森林環境税 ～森林環境税の課税開始と森林環境譲与税の取組状況～」、「②合法伐採木材等をさらに広げるクリーンウッド法の改正」、「③地域一体で取り組む「デジタル林業戦略拠点」がスタート」、「④G7 広島サミットにおいて持続可能な森林経営・木材利用に言及」、「⑤令和6年能登半島地震による山地災害等への対応」を紹介・解説した。

(2) 昨年9月の林政審議会で諮問し、その後、計3回の施策部会において御審議いただき、本年4月の林政審議会において、その結果を受け林政審議会会長より答申が行われた。6月4日に閣議決定の後、国会提出を行い、公表した。(別添1)

### 2. 閣議決定・公表後の動き

#### (1) 報道

共同通信の配信や読売新聞、時事通信においては、特集について取り上げられており、花粉症対策の数値目標や取組方針のほか、スギ人工林造成の経緯等についても紹介された。同様の記事が複数の地方紙において掲載された。

産経新聞等では、特集に加えて、森林環境譲与税の取組が拡大していること等が紹介された。(別添2)

## (2) 広報・普及

閣議決定本の配布、ホームページへの掲載、市販本の出版、紹介記事・SNSの投稿に加え、新たに制作した動画による広告等を行った。

また、林野庁の担当者等が説明会で、現時点で計38回（うちオンライン16回）、約2,000名に白書の概要の説明を行った。昨年に引き続き、平日昼間の参加が難しい方を対象に林野庁単独で平日夜及び日曜日のオンライン説明会を開催した。（別添3）

## (3) 主な評価

説明会でのアンケート調査等では、花粉症対策の具体的な取組が印象に残ったとの評価が多く見られた。具体的な評価については以下のとおり。（別添4）

- ・ 特集の花粉と森林は非常に面白く、良くまとまっており、勉強になった。
- ・ 花粉症が拡大する中で、花粉症対策に関する話題は定期的に取り上げてほしいと感じた。
- ・ スギ人工林の伐採・利用について、どこまで需要を伸ばせるのか気になった。需要が伸びなければ利用量も増えないと思うので、どこまで現実的にスギ材の利用が行えるのか注目したい。
- ・ 森林環境譲与税の取組状況については、様々な取組があり、先行事例は参考になるとともに、納税者に安心感を与えるものと思う。
- ・ OECMと人工林の関係について、森林管理方法が関わってくるため、森林整備について踏み込んで記述してほしい。
- ・ 森林の有効活用について興味を持った。山村の持つ意義も含めて、国民にもっと森林の公益性を伝えてほしい。

令和 5 年度森林・林業白書の  
閣議決定・公表までの経緯

令和 5 年 9 月 12 日 林政審議会

(諮問)

第 1 回施策部会

・作成方針(案)の検討

11 月 20 日 第 2 回施策部会

・令和 5 年度森林及び林業の動向

(構成(案)、主要記述事項(案))

令和 6 年 2 月 20 日 第 3 回施策部会

・令和 5 年度森林及び林業の動向(素案)

・令和 6 年度森林及び林業施策(素案)

4 月 18 日 林政審議会

・令和 5 年度森林及び林業の動向(案)

・令和 6 年度森林及び林業施策(案)

(答申)

令和 6 年 6 月 4 日 閣議決定・国会提出・公表

## 令和5年度森林・林業白書に関する主な報道について

| 紙名   | 日付  | 記事の概要  |
|--|-----|--|
| 共同通信<br>※同様の記事が10社以上の地方紙(北海道新聞、秋田魁新報、信濃毎日新聞、京都新聞、宮崎日日新聞等)に掲載 | 6/4 | <p>【花粉症対策でスギ植え替え促進 林業白書、発生源2割削減】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会問題となっている花粉症の対策として、発生源となるスギ人工林を約2割削減する目標の実現に向け、スギ人工林の伐採と花粉の少ない品種への植替えを促進する方針を示したことを紹介。</li> <li>・スギ人工林は戦後の住宅需要などに応じ植えられ、面積が拡大。1970年以降、スギ人工林の成長に伴い花粉飛散量が増えたことなどで、花粉の有病率が増加したと解説。</li> <li>・政府は、花粉の発生源となるスギ林の伐採を加速し、花粉の少ない苗木や他の樹種への植替えを進める方針であることを強調。</li> </ul>   |
| 産経新聞(電子版)  | 6/4 | <p>【花粉症対策でスギ人工林の植え替えを促進 伐採と品種の変更で発生源2割削減 林業白書】 ※花粉症対策部分は共同通信と同様</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会問題となっている花粉症の対策として、発生源となるスギ人工林を約2割削減する目標の実現に向け、スギ人工林の伐採と花粉の少ない品種への植替えを促進する方針を示したことを紹介。</li> <li>・スギ人工林は戦後の住宅需要などに応じ植えられ、面積が拡大。1970年以降、スギ人工林の成長に伴い花粉飛散量が増えたことなどで、花粉の有病率が増加したと解説。</li> <li>・政府は、花粉の発生源となるスギ林の伐採を加速し、花粉の少ない苗木や他の樹種への植替えを進める方針であることを強調。</li> <li>・森林保全を目的とし、令和6年度から課税の森林環境税に関する取り組みにも触れ、1人年間千円を個人住民税に上乗せし、税収は森林環境譲与税として自治体に配分されることを紹介。</li> </ul> |
| 読売新聞   | 6/4 | <p>【森林・林業白書が花粉症を初めて特集、スギ人工林を33年度に2割減少へ…都市部周辺など重点的に】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・花粉症を初めて特集し、花粉発生源のスギ人工林を33年度に約2割減少させることを目指して、伐採や花粉の少ない苗木への植え替えに取り組む方針を示したことを紹介。</li> <li>・戦後に造成された人工林が建築需要に応じて拡大し、スギは約4割を占める主要樹木となったこと、スギ花粉症が国内で初めて確認されたのは1964年であること、スギ人工林の成長に伴う花粉飛散量の増加により、花粉症に悩む人も増えたことについて言及。</li> <li>・人口の多い都市部周辺などがスギ人工林の伐採重点区域に設定されていることや、伐採や花粉の少ない苗木への植え替えを重点的に進めるほか、作業に必要な道路網の整備も行うことについても紹介。</li> </ul>  |
| 時事通信<br>iJAMP  | 6/4 | <p>【30年後に花粉発生量半減＝伐採・植え替え加速―林業白書】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・花粉症を初めて特集し、原因であるスギの人工林の伐採や花粉の少ない苗木への植え替えを加速させると明記。花粉の発生源となるスギ人工林の面積を10年後に2割程度減らし、30年後に花粉の発生量を半減させる目標を打ち出したことを紹介。</li> <li>・戦後に造られた人工林が利用期を迎えているとし、木材需要の拡大などに「消費者を含めた社会全体で取り組む必要がある」と強調。</li> <li>・人工林は国土保全や木材需要の高まりに対応するため集中的に造成されており、スギが約4割を占め、木の成長とともに花粉症などが顕在化していると解説。</li> <li>・政府は23年5月、花粉症対策の全体像を決定し、都市部周辺を重点区域に設定して、伐採や植え替えを進めるほか、スギ材の需要拡大、効率的な作業のため高性能な林業機械の導入などに取り組むと紹介。</li> </ul>  |

|                   |        |  |
|-------------------|--------|--|
| FNN プライム<br>オンライン | 6 / 4  | <p>【花粉発生量 30 年後 “半減” へ!スギの人工林伐採や花粉少ない品種への植え替え加速化 森林・林業白書を閣議決定】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会問題となっている「花粉症」について取り上げ、花粉症の原因となるスギの人工林の伐採や、花粉の少ない品種への植え替えの取り組みの加速化を強調。</li> <li>・政府は 2023 年 4 月に関係閣僚会議を設置しており、スギ人工林の面積を 10 年後に 2 割程度減らし、30 年後に花粉の発生量を半減させる目標を掲げていることを紹介。</li> <li>・住宅分野では、スギ材製品への転換促進などにより、スギ材の需要を現状の 1240 万立方メートルから、10 年後には 1710 万立方メートルまで拡大することを目指していることにも言及。</li> <li>・森林環境譲与税を活用した取り組みの拡大や、「令和 6 年能登半島地震」の山地災害への対応などについても紹介。</li> </ul>  |
| 日本農業新聞            | 6 / 5  | <p>【政府 森林・林業白書を決定 花粉症減へ道筋示す】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「国民を悩ませる社会問題」として花粉症を特集し、原因となるスギ人工林の伐採や花粉の少ない苗木への植え替えを加速化すると明記。花粉の発生源となるスギ人工林を 10 年後に 2 割減らす目標の達成に向けた道筋を示したことを紹介。</li> <li>・特集では、少花粉品種の開発・普及など花粉発生源対策を紹介し、22 年度はスギ苗木の生産量の半分が少花粉品種だったと報告。高性能林業機械の導入による生産性向上、外国人材の受け入れ拡大や他産業との連携などによる労働力確保への取り組みについても説明。</li> <li>・国土の保全や地球温暖化の防止など、森林の多面的機能にも言及し、「国民の多様なニーズに対応した森林を育み、人と森林のより調和した状態を目指すことが求められている」とまとめた紹介。</li> <li>・森林環境譲与税についても取り上げ、財源となる森林環境税が 6 月から徴収されることを踏まえ、「成果の一層の情報発信に取り組む」ことを説明。</li> </ul>   |
|                   | 6 / 11 | <p>【論説 伐採期迎えた杉 花粉症減らす植林急げ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・白書では、人工林の約 6 割が伐採期の樹齢 50 年を超えており、戦後植林したスギが多いとし、林野庁は、この伐採期を利用し、花粉の少ないスギへの植え替えを加速する考えであると紹介。</li> <li>・花粉の少ないスギ苗木の生産は、10 年前に比べ 10 倍にも増え、ヒノキでも同様の開発が進んでいることを解説。約 30 年後にはスギ花粉の発生量を半分に抑え、花粉症の軽減を目指すことにも言及。</li> <li>・課題の一つは、伐採後の植林を確実に進めることだが、最近の伐採後の植林は 4 割にも満たない。植林意欲につながる価格になるよう、国産材の需要拡大へ官民挙げて取り組まなければならない。</li> <li>・人材獲得競争が激しさを増す中で、林業従事者を確保することも重要であり、「スマート林業」による機械化も含め、若者や女性に魅力ある作業への転換を急ぐべき。</li> <li>・カーボンニュートラルの実現のためにも、所有者が分からず放置されたままの森林の整備を急がなければならない。市町村主体で整備する森林経営管理制度が 19 年 4 月に導入され、利用する市町村が増え始めており、これを加速すべき。</li> <li>・こうした取り組みの財源が森林環境税であり、個人住民税均等割の枠組みで年 1000 円を徴収し、年約 600 億円が市町村や都道府県に配分される。貴重な財源を無駄なく利用する必要がある。</li> <li>・森林は、多様な生き物を育み、水のかん養や防災など多面的機能も持つ国民の財産であり、森林を支える山村を国民全体で支援し続ける重要性を今後も強調すべき。</li> </ul> |

|        |      |  |
|--------|------|--|
| 林政ニュース | 6/12 | <p>【最新版『森林・白書』が「花粉と森林」特集 林業振興や多様な森林づくりとの両立描く】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特集テーマは「花粉と森林」とし、スギ花粉症対策を推進しながら林業振興や多様な森林づくりに取り組む方向性を示したと紹介。</li> <li>・戦後の拡大造林などでスギ人工林面積が増大するとともに花粉症が拡大していることを振り返った上で、少花粉苗木などへの植え替えや花粉発散防止剤の開発、舌下免疫療法の普及など様々な対策を講じていることを解説。</li> <li>・多様な森林づくりを進めることが花粉発生源対策にも寄与するとし、林業・木材産業を成長させながら、森林・林業基本計画で示している「指向する森林の状態」を実現することが最大のテーマであると説明。</li> <li>・花粉症発生原因や周辺状況についても丁寧に書き込んでいると評価。日本国内の花粉症が確認された頃の社会情勢や、花粉症の発生要因としてライフスタイルそのものが影響している可能性についても触れ、短絡せず巨視的な対策を講じることが求められていると解説。</li> </ul>   |
| 日刊木材新聞 | 6/27 | <p>【花粉症と林業の関連を深く解説 外国人労働者や女性従事者に注目 令和5年度森林・林業白書】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・花粉と森林をテーマに、戦後の拡大造林でスギを植林した経緯から花粉症が増加してきた流れや、これまでの花粉症対策と今後の対策について詳しく解説していると評価。</li> <li>・花粉症に関してここまで詳細に幅広く白書で取り上げるのは今回が初めてであり、特に花粉症がクローズアップされることによるスギのイメージダウン回避を念頭に、スギが日本の固有種で、古くから建築物などで利用され、戦後の拡大造林時に主要な樹種となった歴史が記されていると解説。</li> <li>・また、毎年話題として5つのトピックスについて紹介するほか、林業労働力に関する項目では、外国人労働者や女性従事者を例年以上に詳細に取り上げていると言及。特定技能制度に対象分野として追加することが今年3月に閣議決定されたことを受けて、外国人労働者が林業を営む事業所に雇用されていることなど、関連する記述が多く盛り込まれたほか、女性従事者の活躍促進についても明記。</li> <li>・さらに、林野庁のホームページ上で過去の白書も含めて全ページを公開し、内容の普及に努めていることも紹介。</li> </ul> |

## 令和5年度森林・林業白書の広報・普及について

### 1. 白書本文の普及

#### (1) 閣議決定本の配布

閣議決定本を2,500部印刷して、国会に提出(約100部)するとともに、関係府省(約110部)、都道府県(約290部)、都道府県立林業研究機関(約50部)、国会図書館(25部)、都道府県立図書館(約100部)、市立図書館(政令市のみ)(約40部)、林業関係団体(約360部)、林業系高校(約70部)、大学・短期大学等(約70部)等に配布。

#### (2) ホームページへの掲載

農林水産省ホームページにPDFファイルを掲載。8月にHTML版を掲載。7月までのアクセス数は4万5,000件(森林・林業白書トップページ2万4,000件、令和5年度森林・林業白書ページ2万1,000件)。また、広告用コンテンツとして、白書紹介動画を制作し、トップページに掲載(閲覧数約12万回)。

### 2. 市販本の出版

広く一般向けに周知することを目的に、印刷・出版の要望があった者に対し出版許可を行い、市販本計4,800部を出版・配布。

- ・一般社団法人全国林業改良普及協会：4,800部

### 3. 説明会の開催

6月から8月にかけて地方農政局、都道府県、大学、林業大学校等に、林野庁企画課の担当者等が直接赴き、又はWEB会議形式にて、現時点で計38回、約2,000名に対して、森林・林業白書の概要を説明(説明会では、自由記述のアンケート調査を実施)。

#### (1) 4白書合同説明会

全国の地方農政局等において、農・食・林・水4白書の合同説明会を開催。都道府県、市町村、林業関係者等を中心に、計9回、約680名が参加。

〔北海道農政事務所、東北農政局、関東農政局、北陸農政局、東海農政局、近畿農政局、中国四国農政局、九州農政局、沖縄総合事務局〕

#### (2) 都道府県での説明会

都道府県において、主に会議や研修の一環として、白書説明会を開催。

県職員や市町村職員等を中心に計1回、約20名が参加。

〔 佐賀県 〕

### (3) 大学、林業大学校での説明会

全国の大学等において、主に講義の一環として、白書説明会を開催。農学部等の学生を中心に計22回、約910名が参加。現在、1校と調整。

〔 北海道大学、岩手大学、秋田県立大学、山形大学、筑波大学、宇都宮大学、東京大学、東京農業大学、東京農工大学、日本大学、新潟大学、岐阜県立森林文化アカデミー、三重大学、京都大学、京都府立大学、近畿大学、岡山大学、高知大学、九州大学、宮崎大学、鹿児島大学、琉球大学 ※調整中：名古屋大学 〕

### (4) 林野庁単独の説明会

平日昼間の説明会参加が難しい方を対象に平日夜及び週末(日曜日朝)に林野庁単独の白書説明会(オンライン)を2回開催。約220名が参加。

### (5) その他の説明会

以下の組織・団体等において白書説明会を4回開催。約170名が参加。  
〔 林政ジャーナリストの会、日本政策金融公庫、日本ウッドデザイン協会、全国森林レクリエーション協会 〕

## 4. 紹介記事の投稿

森林・林業関係誌等に、白書の紹介記事を投稿。

- 〔
- ・ 「林野-RINYA- 6月号」(林野庁広報室)
  - ・ 「森林と林業 6月号」(日本林業協会)
  - ・ 「森林組合 7月号」(全国森林組合連合会)
  - ・ 「森林技術 7月号」(日本森林技術協会)
  - ・ 「山林 8月号」(大日本山林会)
  - ・ 「林業経済 8月号」(林業経済研究所)
  - ・ 「林野庁 公式フェイスブック」(林野庁広報室)(いいね数158)
  - ・ 「林野庁 公式X(旧ツイッター)」(林野庁広報室)(閲覧数約2万)
- 〕

## 5. その他の情報発信

農林水産省「消費者の部屋」において、森林・林業関連図書と併せて白書を紹介する展示を実施。

〔 本の森に出かけよう～森のめぐみと白書の知識、山の仕事～(8/19～8/23) 〕

MAFF チャンネル (Youtube) にて R5 白書説明動画を公開予定。

(以上)

## 令和5年度森林・林業白書に対する主な評価

### 1. 全般に関するもの

- ・ 森林・林業白書は現在の林業について、とても分かりやすく詳細に記載されていて、改めて自分で読んでみたいと思った。
- ・ 林野庁が国としてどのような活動を行っていて、どのような役割を担っているのか、また様々なグラフから日本の森林の現状、課題を理解することができた。
- ・ 項目ごとに構成され、随所で図や写真、イラストが多用されているため非常にわかりやすかった。林学を学び始めたばかりの学生にとって、森林・林業白書は教科書のような存在。
- ・ 将来、林業などの仕事に関わりたいと思っているため、これからの森林の活用方法についてより興味が湧いたとともに自分でも新たな活用方法など考えてみたいと思った。

### 2. 特集に関するもの

- ・ 特集の花粉と森林は非常に面白く、良くまとまっており、勉強になった。一般的にも注目の高いテーマであり、包括的にまとめて頂いてすごくよかったと思う。
- ・ 戦後の森林政策の変遷がよくわかった。
- ・ 自分自身が花粉症なので花粉が出ないスギの育成がとても印象的だった。
- ・ 自分自身が花粉症ではなく、特にそれを問題視することはなかったので、国が動き、更に白書で特集を組むような話題になっていることに驚いた。また、単に花粉症の対策をするだけではなく、森林管理と結び付けて対策を講じていることに関心を持った。
- ・ 花粉に関しては対策として医療系のみが関わっていると思っている人も多いと思う。林業の視点から対策が行われていることが多くの人に認知されれば、林業に対する印象も変わっていくと思う。
- ・ 花粉症が拡大する中で、花粉症対策に関する話題は定期的に取り上げてほしいと感じた。
- ・ スギ人工林の伐採・利用について、どこまで需要を伸ばせるのか気になった。需要が伸びなければ利用量も増えないと思うので、どこまで現実的にスギ材の利用が行えるのか注目したい。

### 3. トピックスに関するもの

- ・ 森林環境税について、近年新しく制定された税金の枠組みであることは知っていたが、そのお金をどこから取り、どのように利活用しているのかについては知らないことが多かったため、図や写真、説明を通して少し知ることが出来てよかった。
- ・ 森林環境譲与税が導入されたことで、林業に関係のない人が、森林管理に対して関心を抱くようになったと感じる。
- ・ 林業が盛んな地域では、盗伐も問題になっており、クリーンウッド法の改正がどのような効果をもたらすか気になる。

### 4. 通常章に関するもの

- ・ 森林環境譲与税の取組状況については、様々な取組があり、先行事例は参考になるとともに、納税者に安心感を与えるものと思う。毎年、優良あるいはユニークな事例紹介をしてほしい。
- ・ クレジットの認証量が令和5年から航空レーザーの活用などによって大幅に伸びていることに関心を持った。
- ・ OECMと人工林の関係について、森林管理方法が関わってくるため、森林整備について踏み込んで記述してほしい。
- ・ ナラ枯れ、野生動物の増加についても、近年話題となっているため、それらについてもどのような対策が行われているのか詳しく書いてあり、興味深かった。
- ・ 林業不振で疲弊している地方が、山の仕事に誇りをもって生業として続けられる仕組みづくりについて、成功例があれば示していただきたい。
- ・ 森林の有効活用について興味を持った。山村の持つ意義も含めて、国民にもっと森林の公益性を伝えてほしい。
- ・ 海外への木材・特用林産物輸出に関して、他国との比較も含めさらに詳しい情報を知りたいと感じる。
- ・ 東日本大震災からの復興という項目で、現在も被災した海岸防災林の保育作業が継続的に行われているということを知り、一度破壊された環境を元に戻すには膨大な時間と労力を要することが分かった。

※白書説明会におけるアンケート調査より抜粋